タバコと耐性菌に立ち向かう

結核予防会結核研究所
臨床・疫学部　河津 里沙

第47回国際結核肺疾患予防連合（IUATLD）世界大会が英国のリバプール市にて開催された。リバプール市はイングランド北西部マージーサイド州の中心都市であり，かつてのイギリスの主要な港湾都市でもあった。リバプールと言えばザ・ビートルズを思い浮かべる人も少なくないと思うが，現在は市街の世界遺産を活かした都市構成にも力を入れている街である。

リバプール市の世界遺産群

Resistanceに込められた２つの意味：

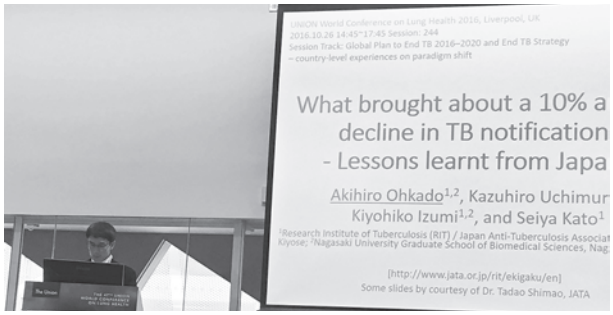
さて今大会のテーマは “Confronting resistance: from fundamentals to innovations” である。Confrontは「立ち向かう」，そしてResistanceは「抵抗」また「抵抗勢力」を指すが，今回，Resistanceには２つの意味が込められている。

一つ目にはDrug-resistance，すなわち耐性菌である。つい先月，国連総会は抗生物質が効きにくいスーパー耐性菌を世界にとって深刻な健康上の脅威であるとの共通認識を示し，取り組みに向けた合意を発表した。これにおいて多剤耐性結核も同様に深刻な問題であることが国際社会においてはっきりと認識された。大会初日（25日）のWHOによるシンポジウムでも，特に多剤耐性結核対策では発見，診断，治療と複数のレベルにおいて理想と現実に大きな乖離があることが示された。26日のワークショップでは東欧及び中央アジアにおいて，多剤耐性結核の治療薬として使われる新規抗結核薬「デラマニド」及び「ベダキリン」へのアクセスと適切な治療の普及がまだ不十分であることが訴えられ，28日のシンポジウムでは移民や小児といった弱者に対する多剤耐性結核の様々な課題が指摘された。

二つ目には結核対策への「抵抗勢力」としてタバコによる健康被害を指している。勿論UNIONはこれまでにも喫煙対策に取り組んできたが，今大会では結核対策における喫煙対策の重要性がより一層に強調されたように感じられた。例えば27日の一般発表（口演，ポスター，eポスター）だけでも４つのセッションが設けられており，また28日には喫煙対策に関連した２つのシンポジウムが開催された。一つ目では政策レベルにおいてタバコの規制に取り組んできた事例が紹介され，二つ目のシンポジウムでは結核及びHIV/AIDS患者における喫煙対策を推奨する発表がされた。29日の口頭演題のセッションでは電子タバコに関する取り組みや様々な課題が取り上げられた。電子タバコに関しては健康被害や禁煙行動への影響などに関するエビデンスが十分に蓄積されておらず，今後も世界的な動向に注目していく必要がある。

結核予防会の活動：

今回の結核予防会関連の発表は口演が１件，ポスター及びeポスター（電子ポスター）が７件であった。また結核予防会主催のワークショップでは，結核予防会岡田国際部長が座長を務め，結核研究所大角臨床疫学部長がシンポジストとして日本における戦後の結核対策について発表した。ワークショップでは座りきれず会場の後方に立って聴講する参加者が多数おり，ディスカッションの時間には活発な意見交換が行われた。秩父宮妃記念結核予防功労賞世界賞はスーダンのアスマ・エル・ソニー医師に与えられた。またカレル・スティブロ賞は結核予防会が受賞した。



10月26日　ワークショップにて発表を行う大角臨床疫学部長